

千葉県立中央博物館

平成 28 年度企画展「驚異の深海生物 ―新たなる新世界へ―」

開催期間：平成 28 年 7 月 9 日（土）～平成 28 年 9 月 19 日（月）



【企画展の目標】

- 深海生物（水深 200 m より深い海に生息する生物）を主題として、海洋生物の多様性と人間との関わりについて学ぶ機会とする。
- タレントのさかなクンを講師としたクイズ大会、深海生物標本を実際に触ったり間近で観察するイベント、ペーパークラフトやレプリカを作成するイベント、第一線で研究している研究者を講師に招いての講演会を用意し、深海生物についてより身近に感じてもらい、さらに学びの効果を高める機会とする。
- 資料収集・調査研究活動という博物館事業の主軸の最新の成果を還元する機会とする。

展示会場の様子



千葉県立中央博物館 外観



企画展会場 入口

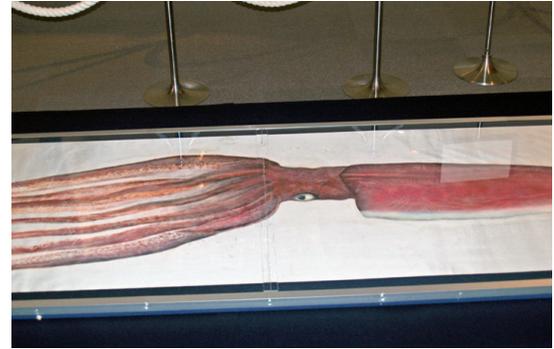
※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



展示室の入口正面付近に、代表的な深海生物としてオオグソクムシ属の3種の標本と説明パネルを設置し、展示全体への興味を喚起する資料とした。さらに導入として、深海についての海洋学的な特性を簡潔に説明するコーナーを設置し、太陽光の届かない暗闇であることや巨大な水圧について学ぶことができるようにしてある。



深海生物の実物標本と、その特徴を解説したパネルを併設し、さらに展示ケースの壁面には潜水調査船が潜航調査時に撮影したさまざまな深海生物の生態画像を展示して、形態的な特徴と生時の様子を感じることができるようにした。標本の配列は動物門ごととした。標本説明のパネルにはユーモアを交えたコメントを付したものもあり、学術的な堅苦しさを和らげ、海の生物への学びの意欲を高めるよう工夫した。



ダイオウイカのレプリカを天井から吊り、その直下には国立科学博物館所蔵のダイオウイカ魚拓を配してダイオウイカに関する分類学的な知見の進展、日本海側での漂着の増加などについて最新の研究成果を学ぶことができるようにした。

関連事業の様子

■ 関連事業名①「深海の生きものをさわってみよう」

【開催日時】平成28年7月10日（日） 10:00～12:00

【開催場所】千葉県立中央博物館研修室

【参加者数】計96名

【目標・内容】

- 珍しい深海生物の標本を直接見たり触ったりすることによる体験型のイベントである。実物にふれる驚きや喜びを感じる機会となり、我々が生活する陸上とはまったく異なる世界に生息する生物が暮らす深海への興味喚起が期待される。
- 学術標本の有用性について学び、理解を深める効果が期待される。



まずは、深海とはどんな海なのかなど、深海の海洋学的な特性についての参加者の知識を探り、それに合わせて簡単な概要説明を行った。その後、さまざまな深海生物の乾燥標本、液浸標本、プラスチック標本、生鮮標本（冷凍で保管）に触れたり、間近で観察した。写真撮影を自由とし、参加者の興味を高めた。



生物標本を、通常の深海の生物、化学合成群集の生物、超深海の生物の3つのカテゴリーに大まかに分け、それぞれについて講師3名が解説につきながら、イベントを進めた。写真のように、実際に触ることにより、触感や臭いなども実感でき、深海生物の形態（固いものも柔らかいものもあること）や体のしくみの多様性について学ぶことができた。

■クイズ大会「深海生物で“ギョッ”」

【開催日時】平成28年7月24日（日） 13:00～15:30

【開催場所】千葉県立中央博物館講堂

【参加者数】300名

【目標・内容】

- タレントのさかなクンを講師に招き、クイズを交えて深海と深海生物についてわかりやすく紹介する。生物学的な観点からは理解が難しい点もさかなクンによるわかりやすい解説をとおして、小さな子どもでも学びを深めることが期待される。
- クイズを通じて、深海生物への学びの意欲を高める効果が期待される。



企画展担当者の作成したパワーポイントコンテンツを使って、展開。始めに深海の特性について簡潔に解説を行い、その後、代表的な深海生物をいくつか紹介し、参加者はさまざまな生物がいることを学んだ。参加者には、随時、何という種類かを問いかけて回答を引き出すようにした。



中途にはさかなクンのフリートークとイラスト描きを挿入し、参加者と言葉を交わしながら、簡単なクイズを出してゆく。その後、勝ち抜き形式のクイズへと移行し、クイズの質問とそれを受けての回答を通して、深海生物の不思議な形態や生態について学ぶことができた。